

2024 年度 履修証明プログラム
産学連携教育イノベーター育成プログラム アントレプレナーシップ教育力育成コース
科目概要

①大学教育基礎力科目（計 15 時間：必修）※オンライン非同期型				
<p>【目的】 大学で授業を担当するのに必須となる基礎的な知識・技能を修得することを目的とします。</p> <p>【学習目標】 大学教育の動向や大学教員の役割・責務・倫理について正確な認識を持つとともに、インストラクショナルデザインやカリキュラムデザイン等の観点から、教育目標（期待される学習成果）の設定、学習評価、教育内容、教育方法、教材作成等に関する基礎的な知識・スキルを修得し、それらの応用により、実務経験の体系化・構造化とその学問的知識との関連付けを行うことを目指します。</p> <p>【授業方法】 各学習項目に関する Web 上の動画を視聴の上、必読文献を読み（オンライン学習：1.5 時間）、各項目について、Moodle 上で小テストに解答した上で、Moodle 掲示板上で講義内容に関する疑問・考察内容等を投稿するとともに、他受講生の投稿を読み、コメントを行う（Web コメント：0.5 時間）。最後に、本科目で学んだことに関する「大学教育基礎力レポート」の作成に取り組みます（レポート：3.0 時間）。</p>		<p>【履修方法】 (1) 学習項目 1～4 は必修です。 (2) 学習項目 5～11 から少なくとも 2 つ選択し学習します。</p> <p>【成績評価方法】 受講した学習項目において、小テストで 6 割以上正解すること、Moodle 掲示板へ投稿すること、並びに、他者の投稿にコメントすることを、大学教育基礎力レポートの提出前に充たさなければならない前提条件とします。大学教育基礎力レポートの評価は、100 点満点で、チェックリストによって評価します。同レポートの評価が 60 点以上であれば、本科目は合格とします。</p>		
学習項目	講師	時間	概要	
1	大学教育制度論 大森 不二雄 (東北大学 教授) 杉本 和弘 (東北大学 教授)	2.0 必修	大学の歴史的発展プロセスを振り返り、現代の高等教育を特徴づける 3 つの変化について学びます。その上で、日本で進行する大学教育改革の特徴を考察し、その中で教員が担うべき主体的役割について考えます。	
2	インストラクショナルデザイン 鈴木 克明 (武蔵野大学 教授)	2.0 必修	教育や研修の効果・効率・魅力を高めるための道具である「インストラクショナルデザイン (ID)」の基礎理論や具体的手法について学びます。	
3	授業設計論 平岡 斉士 (放送大学 准教授) 合田 美子 (熊本大学 准教授)	2.0 必修	学習目標、評価方法、教授方法を統合的にデザインする授業設計の方法を学び、実際に授業内外の学習をいかに設計して学習者に働きかけるかについて考えます。	
4	学習評価論 松下 佳代 (京都大学 教授)	2.0 必修	「学習評価」の枠組み・方法を概観した上で、特に学習成果の多様な評価方法について具体例を通して学びます。また、学生を評価の主体として育てていく必要性について考えます。	
5	学生・学習支援論 岡田 有司 (東京都立大学 准教授) 佐藤 智子 (東北大学 准教授)	2.0 選択 必修	大学生の抱える心理的・発達の問題を理解するとともに、学生支援や「合理的配慮」に基づく障害学生支援について学びます。さらに、学習観が転換しつつある現代に求められる効果的な学習支援のあり方を考えます。	
6	カリキュラムマネジメント 杉谷 祐美子 (青山学院大学 教授)	2.0 選択 必修	大学におけるカリキュラムの歴史的変遷や現状を踏まえ、教育目的・教育目標を実現するための「カリキュラムマネジメント」の考え方や活用方法について学びます。	

7	大学における倫理	山内 保典 (東北大学 准教授)	2.0 選択 必修	知の生産・活用に携わるプロフェッショナルとして、研究上・学習上のアカデミック・インテグリティ (学術的誠実性) を身につけること、大学におけるハラスメントを防止することの大切さについて学びます。
8	教育改善論	高橋 哲也 (大阪公立大学 副学長) 緒方 広明 (京都大学 教授)	2.0 選択 必修	大学に関するあらゆる情報を収集・分析・活用する「インスティテューショナル・リサーチ (IR)」と、学習者の学習活動に関するビッグデータを収集・分析して教育改善等につなげる「ラーニング・アナリティクス (LA)」について学び、組織的な教育改善のあり方について考えます。
9	オンライン授業実践論	根岸 千悠 (京都外国語大学 講師) 浦田 悠 (大阪大学 准教授) 佐藤 浩章 (大阪大学 教授) 村上 正行 (大阪大学 教授)	2.0 選択 必修	オンライン授業は、対面授業とどう違うのでしょうか。オンライン授業やeラーニングに役立つツール・手法を用いた実践事例を紹介しつつ、オンライン授業の実践時に配慮すべき10のポイントについて学びます。
10	ICT等先端技術活用教育論	戸田 真志 (熊本大学 教授) 松葉 龍一 (東京工科大学 教授) 喜多 敏博 (熊本大学 教授) 甲斐 晶子 (青山学院大学 助教)	2.0 選択 必修	ICT等の先端技術を教育実践でどのように活用するのかについて、実際に教育現場においてSNSアプリやスマートスピーカーを用いた実践事例を紹介しながら学んでいきます。
11	実務家教員論	松井 利之 (大阪公立大学 教授) 広瀬 正 (大阪公立大学 特任教授)	2.0 選択 必修	実務家教員が必要となっている政策的・社会的要因を背景に、実務家教員の役割やその登用メリットについて学びます。さらに、先達教員の経験から、実務家教員に求められる心がけや姿勢について考えます。
大学教育基礎力レポート			3.0 必修	受講した学習項目を通して学んだことを振り返り、考察するレポートを作成・提出します。

②汎用的教育実践力科目（9時間：必修）※同期型オンライン

<p>【目的】 大学で授業を担当するために必要となる実践的な知識・スキルの修得を目的とします。</p> <p>【学習目標】 インストラクショナルデザインに基づいた授業設計と模擬授業、シラバス作成を通じて、大学教育基礎力科目で身に着けた知識・スキルを実際の教育現場で活用できるようになることを目指します。</p>	<p>【授業方法】 受講生は、学習項目1と2につき、事前学習（30分）と同期型オンライン・ワークショップ（4時間）でのワークを通して、成果物（授業計画やシラバス等）を完成させます。</p> <p>【成績評価方法】 各学習項目（各演習）受講後の成果物について、到達度をルーブリックで評価します。各学習項目を100点満点で採点し、60点以上で当該項目を合格とします。汎用的教育実践力科目を全体として合格するには、2つの学習項目の両方に合格する必要があります。</p>
---	---

学習項目		講師	時間	概要
1	授業デザイン演習1	畑野 快 (大阪公立大学 准教授) 星野 聡孝 (大阪公立大学 教授)	4.5	大学教育基礎力科目の「インストラクショナルデザイン」や「授業設計論」で学んだ基礎知識を前提に、クラスデザインシートの作成と模擬授業の実践を行うワークショップを通じて、1回の授業を設計・実施する際の基礎を学びます。 *事前学習 30分含む
2	授業デザイン演習2	畑野 快 (大阪公立大学 准教授) 星野 聡孝 (大阪公立大学 教授)	4.5	大学教育基礎力科目の「インストラクショナルデザイン」や「授業設計論」で学んだ基礎知識を前提に、シラバスを作成するワークショップを通じて、授業科目（半期15回）を設計する際の基礎を学びます。 *事前学習 30分含む

③専門領域別科目（必修 24 時間）

※同期型オンライン・対面集合型（詳細は日程表参照）

【目的】

起業時や企業での新規事業開始に当たり必要な基礎知識を学ぶとともに、それらを指導・教育するための手法や技能を習得することを目的とします。

【学習目標】

- ・ 技術マネジメントの基本的な考え方を理解し、説明できる
- ・ 事例に基づく技術マネジメントの指導力を身に付け、実践できる
- ・アントレプレナーが理解しておくべき基本的知識を理解し、説明できる
- ・アントレプレナーの育成体系を理解し、それを実践できる

【授業方法】

(1) 受講生は、学習項目 1 について、Web 上の動画コンテンツを視聴・閲覧し（オンライン学習：0.5 時間）、別途指示されるレポートの作成、その他の課題に取り組みます（事後学習：各 1.5 時間）。

学習項目 2 に関しても、Web 上の動画コンテンツを視聴・閲覧し（オンライン学習：2.5 時間）、別途指示される小レポートの作成その他の課題に取り組みます（事後学習：各 1.5 時間）。学習項目 1・2 の学習時間はそれぞれ 2 及び 4 時間となります。

(2) 学習項目 3・4 については、実践形式で実施される演習に参加し、与えられた実践課題に取り組みながら、そのコーチングスキルを講師から学ぶとともに、授業中に与えられる様々な課題や模擬指導に取り組みます。学習項目 3・4 の学習時間はそれぞれ 6 及び 12 時間となります。

【履修方法】

学習項目 1～4 は必修です。

【成績評価方法】

学習項目 1・2 については、それぞれのレポート及びその他課題について、あらかじめ設定している学習すべき要素を理解し、それが反映された記述となっているかをチェックリストを基に定量的に評価します。同様に、学習項目 3・4 については、実践演習課題の実施内容、ワークへの取組姿勢、コーチングに関するスキルの理解度をあらかじめ設定した項目ごとに定量的に評価します。合格となるためには、演習への主体的な参加（発言や行動）を通して、アントレプレナー育成の重要性を理解し、それらの教育手法を自らのものとしていることに加え、各学習項目を 100 点満点で採点し、60 点以上で当該項目を合格とします。専門領域別科目を全体として合格するには、上記の履修方法に従い、学習項目 1～4 全てにおいて合格する必要があります。

学習項目		講師	時間	概要
1	技術マネジメント基礎論	鐘ヶ江 靖史 (PwC コンサルティング)	2.0	技術マネジメントとそれに関連する知識を学習します。 ※オンライン非同期
2	アントレプレナーシップ基礎論	広瀬 正 (大阪公立大学 特任教授)	4.0	アントレプレナーに必要な基礎知識とベンチャービジネスの基本を学習します。 ※オンライン非同期
3	技術マネジメントコンサルティング演習	鐘ヶ江 靖史 (PwC コンサルティング)	6.0	科学技術の事業化・産業化の考え方・プロセスの指導・育成法を事例に基づき学ぶワークショップに参加し、講師の事例を見ながらそのコーチングスキルを習得します。グループワークでは、実践的に学生を指導する機会が与えられます。
4	ベンチャービジネスコンサルティング演習	広瀬 正 (大阪公立大学 特任教授)	12.0	事業化テーマのブラッシュアップ法を学ぶワークショップに参加し、講師の事例を見ながらそのコーチングスキルを習得します。グループワークでは、実践的に学生を指導する機会が与えられます。

④教育イノベーター実践演習科目（12時間：必修）

【目的】
 これまでに修得した大学教育基礎力並びに汎用的及び専門的な教育実践力を総合的・応用的に活用して、教育イノベーターとして授業や教育プログラム等を変革・改善して実践・運営できるようになることを目的とします。

【授業方法】
 受講生が自ら構想した新規の取組案について、①事前準備（7.0時間）、②事前指導（1.0時間）、③成果発表会・講評（4.0時間）、を行います（計12.0時間）。

【学習目標】
 実践知と学術知の往還を意識しながら自律的に構想した新規の取組案（授業、カリキュラム、プロジェクトの案等）の発表・討論を行います。

【成績評価方法】
 成果発表会での発表について、到達度をルーブリックで評価します。100点満点で採点し、60点以上で合格とします。

学習項目	講師	時間	概要
1 キャップストーン・プロジェクト	松井 利之 (大阪公立大学 教授) 星野 聡孝 (大阪公立大学 教授) 畑野 快 (大阪公立大学 准教授)	12.0	受講生が自ら構想した新規取組案について、①事前準備、②事前指導、③成果発表会・講評を行います。プログラムを通して修得した知識とスキルの統合と振り返りを行うことを通して「教育イノベーター」としての総まとめを行います。

科目の履修要件

1. 大学教育基礎力科目の必修科目の内、学習項目2「インストラクショナルデザイン」、学習項目3「授業設計論」、学習項目4「学習評価論」は汎用的教育実践力科目の受講開始日（9月28日）の前日までに履修完了する必要があります。
2. 専門領域別科目の受講を開始する前日までに、大学教育基礎力科目（15時間）を履修完了する必要があります。

